

シラバス

指定番号 194

商号又は名称：合資会社 ステージケア

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスの理解	2	2	0	1. 介護の社会化と介護保険制度の創設 2. 介護保険制度における多様なサービス 3. 介護保険外サービス 4. 社会資源との連携
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4	4	0	1. 介護職の仕事と働く場所 2. 介護の業務 3. 介護過程
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	視聴覚DVD
------------	--------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 194

商号又は名称：合資会社 ステージケア

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	3,5	1	2,5	1. 人権と尊厳の保持 ①人間の尊厳と自立 ②ノーマライゼーションの意義 ③個人の尊厳と法制度 2. ICF (国際生活機能分類) ①ICFとは ②介護分野におけるICFの活用 3. 生活の質 (QOL) ①QOLとは 4. ノーマライゼーション ①ノーマライゼーションとは 5. 虐待防止・身体拘束禁止 ①尊厳と人権を守る介護 ②高齢者虐待 ③身体拘束の禁止 6. 個人の権利を守る制度の概要 ①個人情報保護法 ②成年後見制度 ③日常生活自立支援事業
② 自立に向けた介護	3,5	1	2,5	1. 自立に向けた介護 ①自立に向けた介護の考え方 ②あるべき主体的な生活 ③個性の尊重 2. 介護予防 ①介護予防の考え方 ②介護予防の必要性 ③介護予防を支える5つの考え方
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	1. 人権について 2. 人権への取り組み 3. 身近な人権のこと
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 194

商号又は名称：合資会社 ステージケア

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職員の役割、専門性と多職種との連携	1.5	0.5	1	1. 介護環境の特徴と理解 <ul style="list-style-type: none"> ①介護環境の理解 ②介護環境の特性 ③訪問介護のおもな原則 ④施設介護のおもな原則 ⑤地域包括ケアの方向性 2. 介護の専門性 <ul style="list-style-type: none"> ①専門職としての介護の視点 ②チームアプローチの実際 3. 介護に関わる職種 <ul style="list-style-type: none"> ①多職種連携における介護職の役割 ②医療と介護との連携の必要性
② 介護職の職業倫理	1	0.5	0.5	1. 介護サービスの公共性と職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> ①介護サービスの公共性 ②介護職としての倫理の必要性 2. 利用者・家族とに対する責任 <ul style="list-style-type: none"> ①利用者・家族との関係 ②利用者の自己決定の尊重 3. 社会に対する責任 <ul style="list-style-type: none"> ①倫理と規範 ②規定されている倫理 ③日本介護福祉会倫理綱領
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1	1	1. 介護における安全の確保 <ul style="list-style-type: none"> ①サービス提供と安全管理体制 ②事故の分類と実態 2. 事故予防安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ①リスクマネジメント ②事故発生時の対応 3. 感染対策のための基本的知識 <ul style="list-style-type: none"> ①感染の原因と経路 ②感染源の排除、感染経路の遮断 ③感染症の治療 ④スタンダード・プリコーション（標準予防策） ⑤手洗い ⑥手袋 ⑦うがい

				⑧マスク、エプロン ⑨洗浄と消毒 ⑩隔離
④ 介護職の安全	1.5	1	0.5	1. 健康管理とストレスマネジメント ①介護職の健康管理 ②身体的疲労 2. 介護職の労働の権利と労働法 ①権利と労働法 ②介護職と労働法 ③訪問介護員の労働時間として認められる業務
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 194

商号又は名称：合資会社 ステージケア

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	3	0.5	2.5	1. 介護保険制度創設の背景、目的および動向 ①介護保険制度創設の背景 ②介護保険制度創設までの経緯 ③介護保険制度施行後の状況 ④介護保険制度の目的等 2. 介護保険制度のしくみの基本的理解 ①介護保険制度の基本的しくみ ②保険給付とその種類 ③要介護・要支援の認定の手順 ④利用者負担 ⑤地域支援事業および地域包括支援センター 3. 制度を支える組織・団体の機能と役割、財源 ①制度を支える組織・団体の全体像 ②サービス提供事業者 ③介護支援専門員 ④介護サービス情報の公表 ⑤国民健康保険団体連合会その他の組織 ⑥介護保険事業計画 ⑦介護保険財政 4. ケアマネジメント ①介護保険制度におけるケアマネジメント ②居宅サービスに関わるケアマネジメント
② 医療との連携とリハビリテーション	3	0.5	2.5	1. 医行為と介護 ①医行為とは一法律的な理解 ②介護職が行う医行為 2. 医療と介護の連携 ①疾病構造の変化と高齢化 ②介護サービス利用者から見た医療の現在 ③ケア提供者から見た在宅医療の現在 ④ケアにおける連携の特徴 ⑤在宅ケアでの連携の例 ⑥連携の要はコミュニケーション ⑦ケアにおける連携の工夫 3. リハビリテーション職種との連携 ①リハビリテーションの理念と目的 ②リハビリテーション医療の過程

③ 障がい者総合支援制度およびその他制度	3	0.5	2.5	1. 障害者福祉制度の理念 ① 障害者の自立と社会参加 ② 法制度の理念と障害の概念 2. 障害者総合支援制度のしくみの基礎的理解 ① 障害福祉サービスの体系 ② 障害福祉サービス利用の流れ ③ 介護保険と障害福祉サービス ④ 障害福祉サービスとの併用
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 194

商号又は名称：合資会社 ステージケア

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション技術	3	1.5	1.5	1. 介護におけるコミュニケーションの技法 ①生活場面におけるコミュニケーション ②相談援助技術の重要性 2. 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ①利用者の心理とコミュニケーション ②家族とのコミュニケーション 3. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ①言語・視覚・聴覚障害者とのコミュニケーション ②失語症・構音障害者とのコミュニケーション ③認知症に応じたコミュニケーション技術
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5	1.5	1. 観察、記録、情報伝達 ①チームケアに不可欠の情報の共有化 ②情報の共有化をするための記録 ③報告・連絡・相談 2. コミュニケーションを促す環境 ①共感的理解とコミュニケーション ②情報の共有とチーム内コミュニケーション
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 194

商号又は名称：合資会社 ステージケア

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	1.5	1.5	1. 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ①感覚・知覚の変化 ②注意力の変化と反応の変化 ③記憶の変化 ④知能の変化 ⑤感情の変化 ⑥性格の変化 2. 老化に伴うからだの変化と日常 ①加齢の生理学
② 高齢者と健康	3	1.5	1.5	1. 高齢者の疾病と生活上の留意点 ①身体的・精神的機能の変化と病気、日常生活への影響 ②おもな症状とチェックポイント 2. 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ①生活習慣とメタボリックシンドローム ②高血圧と糖尿病 ③循環器系の病気（循環器障害） ④呼吸器の病気 ⑤消化器の病気 ⑥代謝・内分泌の病気 ⑦脳神経系の病気 ⑧運動器の病気 ⑨アレルギー・膠原病・免疫の病気 ⑩血液の病気 ⑪腎臓・泌尿器の病気 ⑫こころの病気 ⑬眼の病気 ⑭耳・鼻・喉の病気 ⑮皮膚の病気 ⑯歯の病気 ⑰感染による病気 ⑱介護保険の特定疾病
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 194

商号又は名称：合資会社 ステージケア

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1.5	1	0.5	1. 認知症ケアの理念 ①認知症介護の基本原則 ②最新の認知症ケア
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	0.5	1	1. 認知症の概念 ①認知症とはなにか ②もの忘れと認知症との違い ③認知症の初期症状 ④認知症の診察と診断 2. 認知症の原因疾患とその病態 ①アルツハイマー型認知症 ②血管性認知症 ③レビー小体型認知症 ④前頭側頭型認知症 ⑤その他の認知症 3. 原因疾患別のケアのポイントと健康管理 ①認知症の中核症状 ②認知症の行動・心理症状(BPSD) ③中核症状の薬物療法 ④行動・心理症状の薬物療法
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5	0.5	1	1. 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ①問題行動・行動障害・BPSD ②行動・心理症状の基本的な考え方 ③行動・心理症状(BPSD)への対応 2. 認知症利用者への対応 ①日常生活支援の基本的対応 ②環境整備と基本的対応 ③心理学的援助方法論
④ 家族への支援	1.5	1	0.5	1. 認知症家族介護者の現状の理解 ①家族介護者の介護負担 ②認知症のケアとは ③家族介護者のできる事 2. 認知症をもつ人の声、そして家族の声 ①「認知症と共に生きる私」の声を聞く ②当事者や介護家族の思いに見る諸相

				③認知症との出会い、その支援について ④介護者をめぐる「3つの修羅」 ⑤家族の願い ⑥レスパイトケアの充実を願って
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 194

商号又は名称：合資会社 ステージケア

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念と ICF、障がい者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障害の基礎的理解	1	0.5	0.5	1. 障害の概念と ICF ①障害とは ②障害の構造 ③障害の受容 2. 障害者福祉の基本理念 ①ノーマライゼーションの概念 ②リハビリテーションとは ③インクルージョンとは
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわりの支援等の基礎的知識	1	0.5	0.5	1. 身体障害 ①視覚障害 ②聴覚障害 ③平衡機能障害 ④音声障害、言語障害 ⑤咀嚼障害 ⑥肢体不自由 ⑦内部障害 2. 知的障害 ①知的障害者の生活上の困難 ②知的障害者の心理と行動特徴 ③知的障害者の支援 3. 精神障害 ①精神疾患 ②高次脳機能障害 ③発達障害 4. 強度行動障害 ①強度行動障害とは ②なぜ強度行動障害になるのか ③強度行動障害をもつ人への支援 ④家族への支援 5. 難病 ①難病とはどのような病気か ②難病の特徴 ③おもな難病 ④難病患者の生活上の障害 ⑤難病患者の心理の実際 ⑥難病の治療について

③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1	0,5	0,5	1. 家族への支援 ①障害の理解・障害の受容支援 ②障害の受容の理解
(合計時間数)	3	1,5	1,5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 194

商号又は名称：合資会社 ステージケア

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	3.5	3	0.5	1. 介護の基本的な考え方 ①理論と法的根拠に基づく介護 ②基本的な介護技術の原則 ③介護保険制度下の介護サービス 2. 重度化防止の視点 ①介護予防とは ②介護予防を重視する背景 ③介護予防プログラム
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3.5	3	0.5	1. 高齢者の心理 ①加齢に伴う変化とその心理 ②高齢期のパーソナリティと適応 2. 自己実現と生きがいづくり ①高齢期の喪失体験 ②マズローの欲求と5段階と生きがい ③生きがいとはなにか ④生きがいづくり支援 ⑤感情と意欲の基礎知識
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	3	1	1. 人体の名称とはたらき ①人体各部の名称 ②人体各部のはたらき ③骨・関節・筋に関する基礎知識 2. 運動動作に関する基礎知識 ①からだの動きの基本(基本動作) ②ボディメカニクスの原則と介護への活用 3. 神経系に関するからだのしくみ ①中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ②中枢神経系 ③末梢神経系 4. バイタルチェック ①バイタルサインとは ②脈拍・心拍 ③血圧 ④体温 ⑤呼吸
④ 生活と家事	4	3	1	1. 家事と生活の理解 ①家事援助の必要性和目的 ②信頼関係の構築と秘密保持 ③利用者の価値観に合わせた生活 2. 家事援助に関する基礎知識と生活支援 ①家事援助とは ②調理 ③掃除 ④洗濯 ⑤被服の補修

⑤ 快適な居住環境整備と介護	4	3	1	1. 住環境整備 ①住宅の役割と機能 ②家庭内に多い事故 ③高齢者・障害者にとって快適な住まい ④住宅の汚れ掃除 2. 福祉用具の活用 ①福祉用具の活用にあたって
⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	6	1	1. 整容に関する基礎知識 ①整容の意味 ②衣服の着脱のもつ意味 ③衣服の着脱介助のポイント 2. 整容の介護 ①身だしなみ 3. 衣類の着脱の介護 ①衣類の着脱介護
⑦ 移乗・移動に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	6	1	1. 移動・移乗の介護の基本 ①移動・移乗のもつ意味 ②移動介助のポイント ③移乗介助のポイント ④車いす移動のもつ意味 ⑤外出のもつ意味 2. 体位・姿勢の基本知識 ①体位変換の意味 3. 移乗を行う際の環境整備 ①移動・移乗空間 ②移乗介助の注意点 4. 移動・移乗介助に関連する福祉用具 ①リフトの活用方法 ②段差解消機の活用方法 ③簡易移乗具の活用方法 ④車いすの活用方法 ⑤歩行補助具の活用方法 5. 心身の状態に合わせた移乗介助 ①移乗介助の具体的な方法 6. 移動を行う際の環境整備 ①移動について ②外出時の介護のポイント 7. 移動介助と留意点 ①移動介助について ②利用者の心身の状態に合わせた移動介助 ③歩行介助のもつ意味 ④視覚障害者の歩行の介助
⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	6	1	1. 食事に関する基礎知識 ①食事をする意味 ②食事の生体機能 2. 食事の介護 ①食事の介護の基本 ②食事のアセスメント ③食事の環境整備 ④介護のポイント 3. 口腔ケアの支援技術 ①口腔ケアの意義 ②口腔のしくみとはたらき ③口腔内疾患の原因 ④口腔の管理 ⑤認知症の人の口腔ケア

<p>⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7	6	1	<p>1. 入浴介助の基本 ①入浴のもつ意味 ②入浴（清潔保持）行動のしくみ ③入浴援助のポイント</p> <p>2. 入浴介助に関連する福祉用具 ①入浴のための用具</p> <p>3. 入浴介助を行う際の留意点 ①入浴の介助</p> <p>4. 入浴介助 ①障害別、入浴の環境と介助 ②リフト浴と機械浴の介護</p> <p>5. 清拭介助 ①全身清拭 ②洗髪</p>
<p>⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7	6	1	<p>1. 排せつ介助の基本 ①排せつのもつ意味 ②排せつのしくみ ③排せつの介護 ④「おむつ」の使用と自立支援</p> <p>2. 排せつの介護 ①排せつ行動のアセスメント ②排せつのための用具</p> <p>3. 排せつの介助 ①トイレ（洋式） ②ポータブルトイレ ③尿器 ④差し込み便器 ⑤おむつ交換</p>
<p>⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7	6	1	<p>1. 睡眠に関する基礎知識 ①睡眠の意味 ②睡眠のしくみ ③睡眠の状態と睡眠障害の原因把握</p> <p>2. 睡眠の介護 ①安眠への支援 ②寝具の整え方のもつ意味 ③寝具の整え方の介護 ④ベッド上での介助・留意点 ⑤居室に必要な採光・照明の配慮 ⑥防音の工夫 ⑦空調の管理（暖房・冷房・湿度）</p> <p>3. その他の福祉用具 ①電動ベッド・付属品に関する用具とその活用方法 ②体位変換用具と体位保持用具の活用方法</p>
<p>⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護</p>	2.5	1.5	1	<p>1. 老いと衰えの理解とその対応 ①ターミナルケアとは ②死に至るまでの一般的な経過 ③老いと衰えが進みつつある時期のケア</p> <p>2. ターミナルケアの実際 ①看取りに向けた体制づくり ②臨終が近づいたときの症状や兆候と関わり方 ③看取りの実際とグリーフケア</p>
<p>⑬ 介護過程の基礎的理解</p>	5	4.5	0.5	<p>1. 介護過程の基礎的理解 ①介護過程の目的・意義 ②介護過程の展開 ③介護におけるチームの役割と重要性</p> <p>2. 介護過程の展開の実際 ①事例の概要 ②課題分析標準項目 ③アセスメント・プロセスシート</p>

⑭ 総合生活支援技術演習	6.5	6	0.5	1. 演習1 要介護1（神谷長太郎さん）の事例 ①事例の概要 ②生活状況 ③課題分析標準項目 ④アセスメント・プロセスシート 2. 演習2 要介護3（青山伊代さん）の事例 ①事例の概要 ②生活状況 ③課題分析標準項目 ④アセスメント・プロセスシート
（合計時間数）	75	63	12	

使用する機器・備品等	（別添2-6）実技演習使用備品一覧表に記載した備品を使用
------------	------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 194

商号又は名称：合資会社 ステージケア

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	3	3	0	1. 学習到達度の振り返り
② 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	1	1	0	1. 質の向上と人材育成 ①介護人材の将来見通し ②国の取組み ③キャリアパスの全体像 2. 事業所等における事例に学ぶ ①専門職としての心構え ②チームケアの一員としての心構え ③事業所等におけるOJT ④継続した学習の必要性 ⑤介護保険制度の期待に応えるために ⑥介護プロフェッショナル・キャリア段位制度
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。